

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2393300138		
法人名	株式会社 アスク		
事業所名	グループホームみかんの木		
所在地	蒲都市金平町堀ノ内2-2		
自己評価作成日	令和2年1月7日	評価結果市町村受理日	令和2年2月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2019_022_kani=true&JigyosyoCd=2393300138-006&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 愛知評価調査室		
所在地	愛知県名古屋市長区瑞穂区本願寺町2丁目74番地		
訪問調査日	令和2年1月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・東に三河湾、西には三ヶ根山と静かな場所に位置し、建物の南には自然の光と空気を全身で感じられる開放感ある憩いのテラスがあり、隣接している小学校からは、元気な子供たちの声が気持ちよく響いてくる環境にあります。近くには、岩上神社があり、散歩を兼ねてお参りに行く習慣を根付かせて、自立した生活が少しでも維持出来るように取り組んでおります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「自宅にいるように暮らしてほしい」として、事業所では生活リハビリに力を入れており、例えば朝9時過ぎからADL的に難しい1名を除く全員が自分の部屋を掃除、不十分な点は職員が支援しています。リビングでは周囲の様子に糸乱れることなく写経に没頭する人、ソファに身体をななめに預けて雑誌に読みふける人、お風呂の時間までテレビ鑑賞で過ごす人と、平均介護度1.4の数字を裏付ける壮健な光景が広がります。歩行器をつかって建物内をグルッと巡ることに夢中な人には、「歩行の具合に心配が残るので…」と職員が後ろから見守っていて、その人を中心に置くケアが日々実践できていることが覗えます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

愛知県グループホームみかんの木
自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・理念を月1回の全体会議で職員が復唱し、職員の目につく多目的ホールに掲示している。	「家にいるときのように過ごしてもらいたい」との創業者の想いを「みかんの木」になぞらえて方針を設けています。本年度は職員の入れ替えもあったことから、改めて理念を見つめ直し、生活リハビリに力を入れています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・利用者との外出時(散歩等)には、近所の方と挨拶を交わし、近隣にある神社へのお参り。10月26日形原町民文化祭への参加。(10月21日形原町民体育祭は、雨天中止の為不参加。)お知らせが入る定期的な廃品回収には参加	ハンドマッサージは定期訪問となり、また婦人会や社協に登録のボランティアなど地域の皆さんの来所が増えつつあります。隣にある小学校には畑があり、生育や収穫の様子を覗かせてもらう日もあります。	体制が整いつつあるため、次の一手として小・中・高生の福祉体験を受入れを視野に入れて動くことを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・近隣の方と顔なじみになり、事業所の内容への理解を得られるように積極的に関わりを持てるしていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・運営推進会議を2ヶ月に1回開催し、行事報告、利用者様の状況報告を行い、委員の方からの意見等をいただき、サービス向上に繋げていけるよう努めている。	運営推進会議には行政のほかに総代、常会長、民生委員もメンバーとなってくださり、家族も足を運んでくださっています。本年度から年間計画も立て、定期開催につなげています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・市担当者や地域包括の職員に運営推進会議に参加してもらい、事業所の状況を把握して頂き、協力関係を築いていく。	行政には運営推進会議の出席に協力を得ています。離職が続いたことで地域包括支援センターからは心配の言葉も入り、「満床になったらまたいろいろやってね」と、温かく見守ってもらえています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・全体会議時『身体拘束をしないケア』を理解するよう周知取り組んでいる。日頃の職員の声掛けに注視している。	指針を備えて身体拘束等適正化検討委員会も重ね、廃止に向けた取組みが見られます。港街で育ったせいか職員の発言は活発で、ストレスを抱え込むような様子はなく、また気持ちの良さも伝わるもので、同じ地域出身の利用者との同調が叶っています。	書面整備が遅れている点は早期に是正することを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・日頃の職員の入居者への声掛けを注視して教育している。申し送りの際にも伝達を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・内部、外部研修で権利擁護に関する制度の理解に努めている。必要性のある入居者があれば地域包括支援センター・社会福祉協議会との連携を取り、支援できるよう努めていきたいと思っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・入居時に、契約内容を十分説明し、不安や疑問、意向を聞きながら、納得していただき同意を得ている。又、制度改正時は、その都度、お知らせや面会時に説明して同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・ご意見箱を設置したり、面会時や家族会(年1回)を開催し、家族の意向や要望等を聞いている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・不定期での面談や月に1度全体会議を行っており、その際に職員からの意見、提案を聞き運営に反映させている。代表者、管理者は職員一人ひとりの意見を聴く体制を取っている。	全体会議を毎月おこない、個人面談も定期であります。これまでは年末年始の勤務は時給プラス400円でしたが、個人面談の内容から日・祝にも200円つくことが決定しており、風通しが良いことが覗えます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・代表者とは、月1回の役員会での報告や相談を行っている。現場からの要望に対しての行動は遅い。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・管理者からは代表者に経験値を持ってしての把握をお願いしている。理想論だけでは解決出来ないこと、地道な努力が必要なことを理解してもらうように事あるごとに伝えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・全然出来ておりません。来年からは市内の事業所との連携を図って参りたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入居前と後にもに本人やご家族から、状態、意向を伺い、初期段階で本人が困っていること等、時間をかけ(必要であれば面談や施設見学の回数を多く取る等)聞くように努め、信頼関係を築けるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・面会時等にご家族から要望や不安などを聴く機会を設けて、実施している。実施後も経過内容を報告している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・入居希望や見学時・入居後に、本人や家族の希望を踏まえて、必要としている支援を見極め、他のサービス利用を含めた対応をしている場合もある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・職員は暮らしを共にする者として日常生活(掃除・洗濯・買い物等)を営む為と一緒に取り組むようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・毎月のお便りや年に1回家族会を開催すると共にいつでも面会や外出、外泊できるよう配慮し、ご本人とご家族の絆を大切に、共に支えていく関係を築くよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・馴染みの方がいつでも訪ねて来れるよう配慮している。また散歩時に一緒に知人宅を訪ねるなど関係の継続を支援している。墓参り、自宅へ外出外泊など、健康面等を考慮しつつ、自由に行えるように援助している。	編み物が趣味の利用者はクリスマス会の準備に腕を振るってくださっています。色鉛筆画が好き、習字が好きとの人たちには不用品の道具が周囲から届けられ、また墓参には家族が付添っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・相性が合わない方もおられるが、職員が間に入ることで孤立せず利用者同士が穏やかに関わり合えるように橋渡しを行い支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・サービス終了後も、気軽に訪ねて頂いたり、要望があれば、いつでも相談を受けるなどの体制づくりに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・日常生活の中での利用者一人ひとりの思いを汲み取ったり聴いたりし得た情報は記録(タブレット)で申し送り、職員間で共有し本人の希望に繋げている。	帰宅願望のある利用者が少なくなく、電話を自分でかけようとして何度もチャレンジしている人もいます。家族からは「電話はしないで欲しい」と言われているため、本人の好きなだけダイヤルを触ってもらっています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入居が決まり早い段階に、本人、家族から生活歴、生活環境これまでの経緯などを伺い、利用していた事業所の情報提供を頂き、一人ひとりの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・施設の『一日の流れ』はあり、一日を過ごしているが、個別援助を多く取り入れるよう取り組んでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・ご本人、家族の意向をもとに定期・不定期にケアカンファレンスをし、現状に合った介護計画を作成するようにしている。	『課題整理統括表』をつかって、定期・随時の見直しをおこない、全体会議でカンファレンスが開かれています。また『モニタリング一覧表』はサービス内容に基づいて特記事項を洗い出していることを視認しました。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々の様子で状態の変化、気づきは申し送り(タブレット)を活用し、ケアの統一を図り介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・認知症症状への対応だったり、急変だったり、その時々の変化の速さがあるが、幾度の課題に取り組むことでその時々への対応に慌てることなく対応することが大切だと周知し取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・指マッサージ体操、読み聞かせ等ボランティアの方が来てくださっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・利用時に当事業所の協力医療機関に主治医の変更、もしくは今までの医療機関を継続するなどの選択をいただいている。1回/4週内科医の訪問診療を受けており必要時は施設長が主治医との連携を図っている。当協力医以外の受診は家族対応をお願いしている。	月1回の訪問診療がある協力医に全員が変更、立ち合いは管理者がおこない、『往診時状況一覧表』に記録しています。専門医は家族に依頼していますが、歯科は散歩がてら隣にある医院へ職員と出かけています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・介護職員は日々の心身状態を観察、記録し、施設長・ケアマネに報告し指示を仰ぐとともに、必要時には主治医に報告し、受診できる体制を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院時には症状の落ちついた頃に面会に伺い、家族や医療機関より情報提供していただき、利用者及びご家族に安心して頂けるように対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・利用契約時と入居後も折に触れて、説明している。ご本人と家族の意向を汲み取れるように話し合いを持って頂けるように取り組んでいる。	現在は看取りに取り組む余裕がないものの、意欲はあり、職員を育てる機会としたいとも考えています。口径摂取が難しくなったり、医療が常時必要な場合は無理なことは家族に伝えており、特別養護老人ホームへの同時申込みの人もいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・緊急時対応マニュアルを作成し対応している。事故発生時にはカンファレンス、会議等で、原因究明し随時見直しを図っている。又、急変時の勉強会を折に触れ行うようにしている。急変時には、全員に周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・年2回火災想定避難訓練を予定している。(6月実施)防火管理会社の助言、指導の下行っている。	年2回の法定訓練は未実施なもの、急ぎ計画を作成して、1月と3月におこなう予定です。備蓄は関連会社にローリングストックがあり、また市の福祉避難所の指定を受けているため、今後預かり備蓄が届く予定です。	関連会社が食糧品を取り扱っているため安心な体制にあるものの、寸断されたときを考えると、事業所内の備蓄を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・利用者様に尊厳ある声掛け、言葉使い、態度で対応している。	ノック、小声での声かけに配慮し、年間研修には接遇も位置付けています。また新管理者は入居の折に本人に居室を案内して説明をおこなうことを課しており、普段も外出では着用の服を選んでもらうようにしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・入居者への丁寧な声掛けと選択や同意を得るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・個人のペースに合わせ、施設側の都合に合わせた運営にならないように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・お肌の手入れや化粧、美容などの身なりを整える時間を持つように接している。外出を増やして周りを意識するような機会を持ちように働き掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・なるべく一人ひとりの食べたいものなど聞きながら献立するが、好みの統一は難しい。調理しながら出来る料理の話題で調理時間から楽しく食事ができるよう配慮している。又、食事に集中していただくためBGMに音楽を流している。	職員の働きやすさを考えて半製品が毎日届けられ、職員も食卓を囲む会話のある食事風景です。来月は恵方巻きが計画され、行事食や誕生日メニューが検討され、食の楽しみが提供されています。	職員が話材を振りまき愉しくとの意図が十分伝わりますが、ややもすると業務連絡や協議が始まるきらいがあるため、利用者の家との意識継続について見直すことを期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・ご本人の適量を知り、的確なカロリーにこだわらず家庭料理で摂取できるようにし食事・水分は記録で確認をしながら摂れるように工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後、やり忘れのないように洗面台にセットし、一人ひとりの歯磨きは見守りを含め、確認を行っている。毎夕食後には洗浄して、清潔を保つようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・ADL及び排尿や排便リズムを考慮した、声掛け、見守りと介助を行い自立に向けた支援を行っている。	本来は自分でできたかったのですが、その力が衰えていたまま入居した人に、少しずつ意向を確認しつつ関わり、「じゃあ、こうしよう」「ああしよう」と進めたところ、自分でトイレに向かうようになった、との例もあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・日常生活でのリハビリやラジオ体操・散歩を日課として、水分も摂取できる時には、少しずつでも取っていただくようにしている。排便カレンダーを活用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・毎朝と入浴前(昼食後)にバイタル測定し体調、その日の気分によってに支援している。	週2回を清潔の日安とし、柚子湯の季節風呂のほか、蜜柑を浮かべることもあります。「夜入りたい」には職員のシフトの都合上応えることはできませんが、同性介助は実現させています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・一人ひとりの生活パターンに合わせてお昼寝や就寝時間を状況に合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・投薬カレンダーに個々の薬を入れてあり、薬剤師と連携して支援している。薬の説明書もファイルしてあり、主治医による薬の変更は、データ修正して、対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・日常生活での共同の役割(掃除・洗濯・料理)や趣味の生け花・お茶を取り入れたり、お買い物や地元の名所への外出の機会を頻回に設けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・ご本人や家族からの外出希望などを可能な限り実施している。具体的には、喫茶店や近隣の神社までの散歩や図書館利用、ドライブなどの利用者様の自宅など外出できるように支援している。	「外出したくない」といった人を除いて細目に誘いだし、2、3名で海岸までのミニドライブ、ちょっとした買い物は日常の中に溶け込んでいます。また地域の文化祭への遊山は恒例となり、初詣や花見にも出かけています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・欲しいものがあれば、一緒に買い物に行き、立替で管理出来る方はお支払して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・ご家族の了解の元、電話をかけたいと言われれば、キッチンに設置してある電話を使って頂いている。手紙を書きたいと要望があった時には、便箋や封筒をお渡しし、やり取りできるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・南側に大きな窓があり、自然な光と季節を感じられる共有空間として活かしている。又、廊下に面した居室ドアの横には利用者様の作品や写真などを飾っている。	生活リハビリに重きをおいているだけあってスペースを広くとっており、またテーブルの上にはシクラメンが愛らしく微笑んでいて、利用者が新聞紙を折ってつくった小さなゴミ箱からも安寧が滲み、居心地が良い空間です。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・安全面に配慮し、異なったテーブルを配置して落ち着いた空間になるように常に考えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・各居室に日めくりカレンダーを用意し、ご本人が使い慣れた家具や持ち物(生け花・お茶等)をお願いしている。	全居室に日めくりカレンダーが置かれ、また自室の窓枠から見える景色を得意の色鉛筆画で描いた作品を飾ったり、絵本を置く等自身の趣味や好みを反映させています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	・建物内部はバリアフリー、手すり、浴室内、トイレ等は、残存機能が活かせるようにしているもう一つの浴室内に手すりが付いていない。要望を出したが対応がなされない状態が続いている。		